

和紙から世界を考えよう

校名:弘前大学教育学部附属小学校

名前:八嶋 孝幸

・背景

地域の産官学連携の取り組みの中には、持続可能な社会を目指して模索したよいモデル(りんごや桜の選定枝を利用した和紙作り→商品化等)があり、それらを教育資源として生かすことで、SDGsの目標達成につながる質の高い教育の実現ができると考える。勤務校は、大学の附属学校であり、専門の研究者と連携がとりやすいという強みがある。

筆者は図工・美術教育の研究が専門であり、和紙等を生かした日本の伝統工芸の伝承等についても研究をしてきた。

上記の背景を生かして、「和紙」というテーマの中にある、SDGsの目標達成のための視点を生かしたクリエイティブ教育を通して、これからの社会に必要とされる新たな意味や価値を生み出すことをねらいたい。

・単元、プログラム企画案

タイトル	和紙から世界を考えよう				
学年	4	教科	総合+国語+社会+図工+道徳	総時間	50
学習テーマ	環境 国際	学習実践 タイプ	クロスカリキュラム 総合的学習の時間		
学習目標	1 持続可能な社会の意味やSDGsに向けた取り組みについて理解している。 2 SDGsの目標12に関連した「自分たちにできること」を中心に考え、提案書にまとめている。 3和紙を生かすためのプロジェクトを立案・計画・実行・改善している。 4自分たちの取り組みを地域や全国、世界に発信している。				
育成したいスキル	・イノベーションのための学習スキル(創造性・革新性・批判的思考) ・情報、メディア、テクノロジースキル(情報活用リテラシー・メディアリテラシー・ICTリテラシー) ・キャリアスキル(柔軟性・順応性・社会性・異文化理解)				

・指導のポイント

- ・ものづくりを通して和紙という日本特有のもののよさを理解し、そのよさをグローバルに発信(Flipgrid等使用)。→多様な視点を生かし理解を深める。
- ・社会問題との結びつきについて、クロスカリキュラムで効果的に学習する。(SDGs 目標 9, 12, 14, 15)
- ・ローカル企業との連携(印刷業、ねぶた関連等)をする。
- ・パフォーマンス評価の際の児童とのルーブリックの共有やICTを活用したフィードバックの充実等を通して、自己の学びを調整しながら取り組めるようにする。

・単元の指導計画

単元の流れ	育成するスキル	評価規準(評価方法)	活用するツール例
<p>導入</p> <p>○国語、社会、道徳で「SDGs目標 12」について学習する。(つくる責任、つかう責任)</p> <p>○りんごやさくらの選定枝やりんごの搾りかすを使用した和紙や和紙のよさ等について知る。(作り方、製作に至った思い、文化遺産である理由等)</p>	<p>問題に対する理解</p> <p>批判的思考力</p> <p>文化理解</p>	<p>教師の観察</p> <p>自己評価(ルーブリック・ポートフォリオ)</p>	<p>・Sway</p> <p>・Teams</p> <p>・Whiteboard</p>
<p>展開</p> <p>○学習したことを基に、自分のテーマを持ち、SDGsの目標を達成するための作品製作をする。(図工+総合)</p> <p>・協働しながら課題に取り組み、チームワークや推進力を高める。</p> <p>・実際に思いを形にする試作の機会、それに伴うスキルについて習得していくなど包括的に学びを深める。</p> <p>・課題とグローバルな繋がりを結びつける。</p>	<p>創造性</p> <p>情報収集・分析力</p> <p>プログラミング的思考(計画・定義・構造化)</p> <p>デザイン思考</p> <p>表現力</p> <p>コラボレーションスキル</p>	<p>成果物(作品, Sway)</p>	<p>・Whiteboard</p> <p>・Sway</p> <p>・Teams</p> <p>・発表用プロジェクトター</p> <p>・大画面テレビ</p>
<p>まとめ</p> <p>・自分たちの活動をプレゼン資料にまとめる。</p> <p>・各学級で発表する。</p> <p>・成果を広く発信する。</p>	<p>ICTリテラシー</p> <p>表現力</p> <p>情報活用力</p>	<p>発表プレゼン(Swayを使用した発表)</p>	<p>・Forms</p> <p>・Sway</p> <p>・Teams</p> <p>・Flipgrid</p>
<p>振り返り</p> <p>・探究課題に対する自分の考えをまとめる。</p>	<p>情報収集力(整理・集約)</p>		<p>・Forms</p> <p>・Sway</p>

・新時代の教育に向けた提言

『新時代の教育』を実現するにあたって、教師の役割を一緒につくることに参加する「ジェネレーター」へと変化させていきたい。つながりを生かして共に新たな意味や価値を生み出しながら、創造社会に求められる教育を推進していきたい。